



# 拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 106

令和 8年 2月 25日

**2月4日(水)に社協常任理事会が行われました。  
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**

1月下旬に今季最強・最長の寒波が到来し、大雪に見舞われ、真冬が10日間続きました。2月中旬以降、少し緩みましたが、皆さま油断なさらずに。

## ■ ボランティア企画部より ■

### ・ 今冬の生活支援ボランティアの活動

高齢男性から室内清掃の依頼（月1回）と、高齢女性からごみ出しの依頼（週1回）がありました。

広報さっぽろ2月号の一番後ろの頁に、私たちのサポートたくあいが紹介されました。

## ■ 総務部より ■

### ・ 今年度の認知症対応事例研修会について一開催日時、場所が決定！

3月14日（土）10：00～12：00、地区センター1階多目的ホールにて開催予定です。研修内容は全体で2時間程度とし、①講座及び寸劇を45分、②事例報告を30分、③グループ討議を30分、④まとめ情報共有を15分、の予定です。皆様、ぜひご参加ください。

### ・ 生活支援ニーズ調査及びボランティア登録希望調査のお願い

昨年・一昨年に続き、連町・社協・民児協の三者で生活支援ニーズの調査として簡単な全世帯アンケート調査を3月中旬に実施する予定です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## ■ ふれあい交流部より ■

・ 2月3日（火）のひまわりクラブは拓北・ひまわり会館に2組4名の親子さんが参加され、自由遊び、「いとまきのうた」と「はないちもんめ」の遊戯のほか、節分にちなんだプログラム-鬼のお面などを飾り付けたフォトスポットコーナーで記念撮影、絵本「おにはそと」の読み聞かせ、部員が鬼のお面をつけて手作りのこん棒を持ち登場し、豆まき(コーンクッション)をしてもらう-を楽しまれました。

次回のひまわりクラブは3月12日（木）10：00～11：30、地区センター和室A・Bにて開催予定です。



2組4名の親子さんたちが参加した、2月3日のひまわりクラブ。自由遊びをしている様子。



節分のフォトスポットコーナーで記念撮影をしている様子。



絵本「おにはそと」の読み聞かせをしている様子。



地区センター24名、オンライン1名、合計25名が参加した、1月20日の地域ケア部の例会。

## ■ 地域ケア部より ■

1月例会は20日（火）18：30～20：00、地区センター2階集会室にて「認知症について、みんなまで話そう！～認知症になっても、ここで暮らし続けるには何が必要？～」をテーマに行いました。春の歌（小規模多機能型居宅介護）・管理者の鬼塚亜美（おにつか・つぐみ）さん、拓北・あいの里民生児

[ 裏につづく ➡ ]

童委員協議会・副会長の柴田登（しばた・のぼる）さん、拓北・あいの里まちづくりセンター・所長の佐々木俊晃（ささき・としあき）さん、本会会長の渡邊寛（わたなべ・ひろし）の4名をゲストに、このまちの認知症のことについて話題提供いただき、その話の後に参加者皆さんと意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター24名、オンライン1名、合計25名。

最初に、佐々木さんから、拓北・あいの里地区の現況について、人口の統計データ（人口の推移、まちセン区域別老年人口率及び持ち家率、年齢構成、条丁目高齢化率）を用い、議論のベースとなる話題を提供していただきました。札幌市全体と比べて、地区の現況の特徴として、10年前の老年人口率は低く（19.7%）若い地区であったが、現在は全市平均（28.9%）よりも高くなっており、10年前と比べて高齢化が進行している。特に60～70歳代が全市より多く、今後さらなる高齢化が予測される。高齢化率は拓北地区で32%台、あいの里地区で33%台となっており、逆転している。75の条丁目の高齢化率をみると、全市平均より高い30%台が25、40%台が11、50%台が3もある。

渡邊会長からは、地区社協会長の立場から、近年の状況と今後の課題について、問題提起しました。近年町内会レベルで認知症の相談が増えており、認知症が身近にあると感じる。しかし、どのように対応すればよいのかよくわからないので、接点の持ち方に躊躇する。これから大きな問題になるのは間違いなく、それに対して実行するのみであり、とくに町内会の三役はこの問題に真剣に取り組むべきであると考えている。

柴田さんからは、最近、参加した研修会で、認知症対応に活かせると思う要点を提示されました。認知症本人やご家族が隠したがることもあり、問題の見えづらい状況がある。認知症当事者にとって、頼り先の見えない社会であり、頼るべくもない社会になってしまっている。したがって頼り先の見える化が必要で、縁側文化の復活を提唱したい。縁側は周りも遠くも見渡せるし、遠くからも見え、誰か居てくれるのも分かる場所である。認知症対応だけでなく、日常一般の思いやりのあるコミュニケーション（傾聴）が大切である。

鬼塚さんからは、ご本人が運営する小規模多機能型居宅介護・春の歌での経験に基づき、徘徊とは？、実際に春の歌で起こった事件—12月上旬の夕方に春の歌の利用者さんが徘徊し、行方不明になり、8時間後の翌日の夜中に戻ってきた—の紹介、皆さんと一緒に考えたいこと、対策についての4点について話題を提供していただきました。徘徊は認知症の症状の一つで本人なりの理由があること、徘徊している様子の認知症の方に声をかけられなくても、警察に情報提供をしてほしいこと、周りの理解と工夫で本人の地域生活を支えられる可能性があること、認知症の人もそうでない人も安心して暮らし続けられる地域になってほしいこと、とくに近隣住民や地域との連携が重要であることが提示されました。

会場の参加者からは、①認知症の症状の軽い時に医療機関で受診すれば進行を遅らせることができる、②徘徊している人（全く知らない人）に対して声かけする時、「こんにちは」等の挨拶から入り、その日の天気の話やこれからどちらへ？といった、普段からの声かけの練習が大切、③認知症対応で一番大事なのは当事者のやりたいことを見守ってあげること、④認知症の人もサポーターの人もどこにいるのかわからない⇒認知症サポーターであることを示す「オレンジリング」（現在はカードに変わっている）を周りに見える場所に常に身につけること、⑤いろんなきっかけづくりを、接点をあちこちで持つ、例えば子育て支援に高齢者が係わることでつながりがつくれる、といった意見が出されました。

なお、2月例会は17日（火）18：30～20：00、地区センター2階集会室にて、注文をまちがえるレストランたくあい2025実行委員・杉本香陽（すぎもと・かよう）さんをゲストに「たくあいでのこのレストランを継続していくためには」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の107号で報告いたします。

## ◇ 今後の予定 ◇

3月例会は17日（火）18：30～20：00、地区センター2階集会室にて、拓北あいの里ケア施設町内会事務局長の長谷川聡（はせがわ・さとし）をゲストに「町内会 DX化で何が変わる？」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メンバーリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール takuai.jimu@gmail.com でお問合せ下さい。